

# UBS 豪ドル・ ボンド・インカム

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託/  
追加型(豪ドル建て)

## 交付運用報告書

作成対象期間 第7期

(2016年3月1日～2017年2月28日)

### その他の記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社までお問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ  
インベスターサービス銀行S.A.**

代行協会員

**三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社**

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。  
さて、UBS 豪ドル・ボンド・インカム(以下「ファンド」といいます。)は、このたび、第7期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### <クラスA受益証券>

第7期末	
1口当たり純資産価格	9.87豪ドル
純資産総額	11,283千豪ドル
第7期	
騰落率	-0.58%
1口当たり分配金合計額	0.360豪ドル

(注1)騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

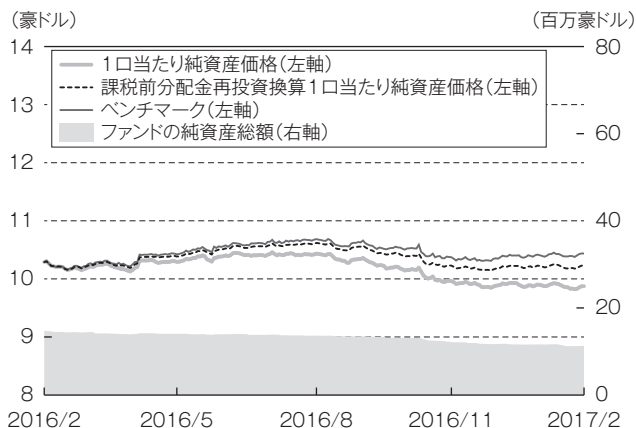
(注2)1口当たり分配金合計額は、税引前の1口当たり分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

(注3)純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

## 《運用経過》

### 【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

#### クラスA受益証券



第6期末の 1口当たり純資産価格	10.29豪ドル
第7期末の 1口当たり純資産価格	9.87豪ドル
第7期中の 1口当たり分配金合計額	0.360豪ドル
騰落率	-0.58%

\*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

\*課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第6期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

\*グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

\*ファンドは、ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックス(Bloomberg AusBond Composite0+ Yr Index)をベンチマークとしますが、ファンドの受益証券1口当たり純資産価格は、必ずしもベンチマークに関連して推移するものではなく、ファンドの騰落率がベンチマークの騰落率と関連することは保証されません。以下同じです。

#### ■1口当たり純資産価格の主な変動要因

当期中のクラスA受益証券の騰落率は-0.58%となり、ベンチマーク(+1.43%)を2.01%下回りました。

当期を通じてイールドカーブの平坦化を見込んだポジションを維持したことは概ねパフォーマンスにプラスとなりましたが、2016年8月から9月に世界的に金利が急上昇した局面においては、イールドカーブを平坦化していた戦略はマイナスとなりました。また、個別銘柄選択はプラス要因となりました。また、管理運営費用がファンドの基準価格から差し引かれたことも、ベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

#### ■ベンチマークについて

ブルームバーグオーストラリア債券(総合)インデックスは、オーストラリアの債券市場を全体的に反映する指数として広く使用されています。

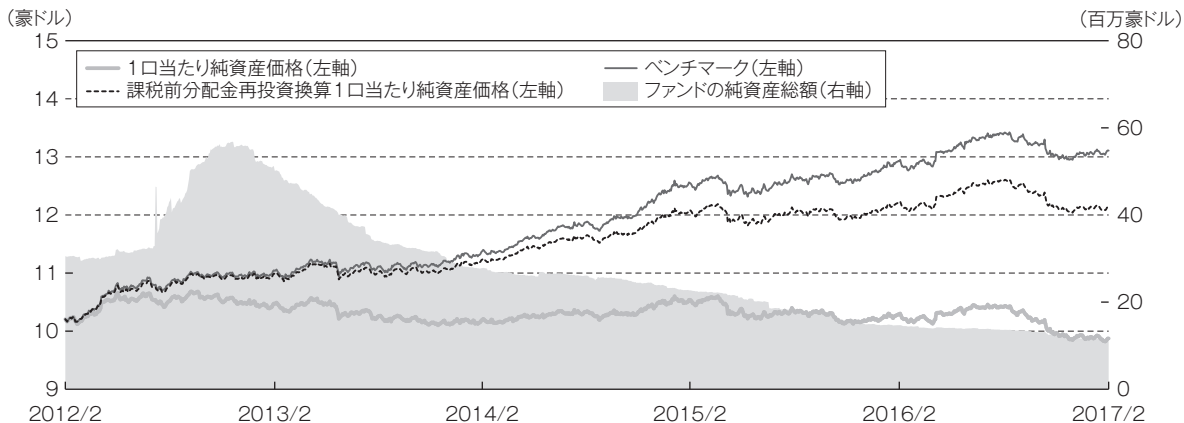
【費用の明細】

項 目		項目の概要
運用管理費用		クラスA受益証券の純資産総額の年率 <b>1.185%</b> (ただし、最低年間報酬が適用される場合があります。)
内 訳	管理報酬(副管理報酬を含みます。)、 保管報酬および 管理事務代行報酬	合計でクラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い)  管理報酬は、信託証書に定める管理会社としての業務の対価として、管理会社に支払われます。保管報酬は、信託証書に定める保管会社としての業務の対価として、保管会社に支払われます。管理事務代行報酬は、信託証書に定める管理事務代行会社としての業務の対価として、管理事務代行会社に支払われます。
	受託報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.01%(四半期毎に後払い) ただし、ファンドに関する最低年間受託報酬を10,000米ドルとします。  受託報酬は、信託証書に定める受託会社としての業務の対価として、受託会社に支払われます。
	投資運用報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.475%(四半期毎に後払い)  投資運用報酬は、関連するファンドのポートフォリオの投資運用、資産の投資および再投資の管理業務等の対価として、投資運用会社に支払われます。
	販売報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.50%(四半期毎に後払い)  販売報酬は、投資者からの申込みまたは買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、販売会社に支払われます。
	代行協会員報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%(四半期毎に後払い)  代行協会員報酬は、ファンド証券の純資産価格の公表を行い、またファンド証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を販売会社に交付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
その他の費用(当期)		1.33%  副保管報酬、専門家報酬、CIMA関連年次費用、先物手数料等

(注)各報酬については、目論見書に定められている料率を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

## 【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】

### クラスA受益証券



	第2期末 (2012年 2月末日)	第3期末 (2013年 2月末日)	第4期末 (2014年 2月末日)	第5期末 (2015年 2月末日)	第6期末 (2016年 2月末日)	第7期末 (2017年 2月末日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	10.21	10.47	10.19	10.54	10.29	9.87
1口当たり分配金合計額 (豪ドル)	—	0.504	0.504	0.408	0.360	0.360
騰落率 (%)	—	7.68	2.22	7.58	1.09	-0.58
ベンチマーク騰落率 (%)	—	8.18	3.07	10.30	2.97	1.43
純資産総額 (千豪ドル)	30,557	50,165	27,808	22,707	14,700	11,283

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格およびベンチマークは、第2期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注2) グラフ中の純資産総額は、ファンドの純資産総額を表示しています。

## 【投資環境について】

当期の豪州債券価格は上昇(金利は低下)しました。

期初は豪州の貿易やGDP成長率の堅調さなどを背景に金利は上昇し、債券市場は下落して始まったものの、4月下旬に消費者物価指数(CPI)の予想外の低下により豪州中央銀行(RBA)による利下げ観測が高まり、金利は急低下し、債券市場は大きく上昇しました。5月に入り予想通り利下げが行われたものの、RBAの金融政策報告でインフレ見通しが引き下げられたことから、更なる利下げが意識され、豪州債券価格は続伸しました。その後も6月後半に行われる英国のEU離脱の是非を問う国民投票を控え不透明感から金利は低下傾向となり、選挙後も離脱に関する不透明感の高まりや豪州の4月から6月期のCPIの鈍化を受けた利下げ観測の高まりが金利の下押し圧力となったことから、豪州債券価格は7月末まで概ね上昇する展開となりました。9月に入り、米連邦準備制度理事会(FRB)による年内利上げ観測やRBAが金融政策決定会合で利下げを示唆しなかったことなどから世界的に金利が上昇し、豪州債券価格は下落しました。その後、米国での利上げの見送りやドイツ銀行の経営不安に対する懸念などを受けて、一時金利は低下したものの、米国の好調な景気や原油価格の上昇などを受け、再び金利は上昇基調となり、豪州債券価格は下落しました。11月に入り、米国の大統領選挙においてトランプ氏が勝利したことで金利が一時急低下したものの、トランプ氏の政策期待や米国の利上げ観測を背景に豪州の金利は大きく上昇することとなり、豪州債券価格は下落しました。その後もトランプ氏の拡張的な財政出動への期待などからリスク志向が高まり、世界的に金利上昇が進む中、豪州債券価格は年末まで概ね下落する展開となりました。2017年に入り、新政権に対する政策実行力に対する懐疑的な見方が広がり、米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録でハト派的な内容が確認されると金利は低下基調となり、豪州債券価格は上昇しました。その後は豪州の経済指標の内容において好不調の指標が混在したことや、米国の金融政策の方向性などを背景に豪州債券価格は一進一退の展開が続き、結局前期末比で、豪州債券価格は上昇して期を終えました。

## 【ポートフォリオについて】

### 2016年3月1日～2016年3月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対し小幅に長期化し、イールドカーブの平坦化を見込んだポジションを取りました。リスク資産が大幅に回復したことで豪州債券の利回りが上昇し、リターンに対する3月のデュレーション戦略はマイナス要因となりました。一方、イールドカーブ戦略については世界的な情勢を受けイールドカーブが平坦化したことからプラス寄与となり、銘柄選択もプラスとなりました。

### 2016年4月1日～2016年6月30日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対し長期化としていましたが、5月に消費者物価指数(CPI)の低迷を受けて金利が低下したことから、利益確定を行いました。その後、豪州債券市場の上昇が続ぎ、行き過ぎとの判断からデュレーションを短期化したものの、6月末にかけて短期化した戦略を解消しました。イールドカーブは平坦化を見込んだポジションを取り小幅なプラス寄与となりました。

### 2016年7月1日～2016年9月30日

ファンドは、イールドカーブの平坦化を見込んだ戦略としましたが、リターンに対しマイナス要因となりました。デュレーション戦略については、ベンチマークに対するニュートラルが小幅にマイナス要因となりました。また、社債のオーバーウェイトがリターンにプラス寄与しました。

### 2016年10月1日～2016年12月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対しニュートラルとしましたが、10月に豪州債券が下落したため、長期化しました。その後、11月の米大統領選終了直後に、豪州債券価格が値上がりしたことから利益確定を行いました。12月にデュレーションを長期化し、この戦略はリターンに対し小幅にマイナスとなりました。10月から12月までのデュレーション戦略は、リターンに僅かにプラス寄与となりました。イールドカーブは傾斜化を見込んだ戦略としましたが、米国選挙の結果を受けてイールドカーブが傾斜化したことから利益確定を行いました。

また、社債のオーバーウェイトと州政府債のアンダーウェイトがリターンに対しプラス寄与となりました。

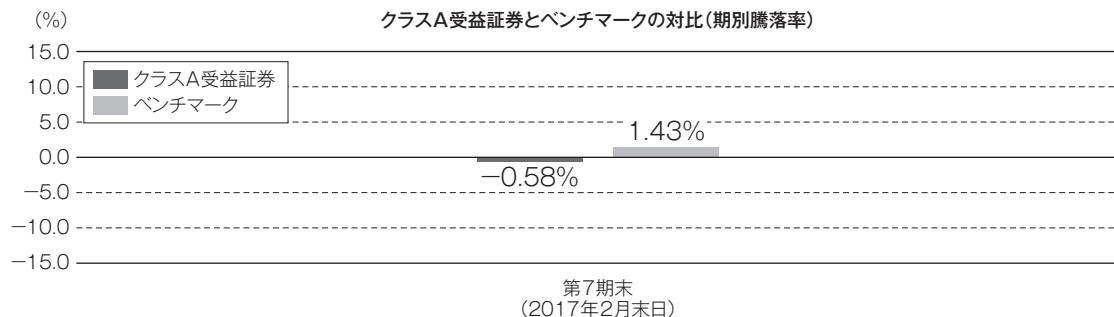
### 2017年1月1日～2017年1月31日

ファンドは、デュレーションをベンチマークに対し長期化としました。1月末にかけて豪州債券価格が上昇したためリターンに対しプラスに寄与しました。イールドカーブ戦略においては平坦化を見込んだ戦略としていましたが、リターンに対する寄与は概ねフラットとなりました。また、スプレッドの縮小により社債のオーバーウェイトがプラス寄与となりました。

### 2017年2月1日～2017年2月28日

ファンドは、デュレーション戦略の長期化を維持しました。2月中、金利がやや上昇したことからリターンのマイナス要因となりました。イールドカーブ戦略においては平坦化を見込んだ戦略としていましたが、リターンに対する寄与は概ねフラットとなりました。また、スプレッドの縮小により社債のオーバーウェイトがプラス寄与となりました。

## 【ベンチマークとの差異について】



### クラスA受益証券とベンチマークの騰落率の差異の状況および要因について

当期中のクラスA受益証券の騰落率は-0.58%となり、ベンチマーク(+1.43%)を2.01%下回りました。

当期を通じてイールドカーブの平坦化を見込んだポジションを維持したことは概ねパフォーマンスにプラスとなりましたが、2016年8月から9月に世界的に金利が急上昇した局面においては、イールドカーブを平坦化していた戦略はマイナスとなりました。また、個別銘柄選択はプラス要因となりました。また、管理運営費用がファンドの基準価格から差し引かれたことも、ベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

## 【分配金について】

当期(2016年3月1日～2017年2月28日)の1口当たり分配金(税引前)はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

<クラスA受益証券>

(金額:豪ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 <sup>(注1)</sup> )	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 <sup>(注2)</sup>
2016年3月18日	10.18	0.030 (0.29%)	-0.01
2016年4月18日	10.18	0.030 (0.29%)	0.03
2016年5月18日	10.29	0.030 (0.29%)	0.14
2016年6月20日	10.33	0.030 (0.29%)	0.07
2016年7月19日	10.40	0.030 (0.29%)	0.10
2016年8月18日	10.41	0.030 (0.29%)	0.04
2016年9月20日	10.28	0.030 (0.29%)	-0.10
2016年10月18日	10.18	0.030 (0.29%)	-0.07
2016年11月18日	9.98	0.030 (0.30%)	-0.17
2016年12月19日	9.86	0.030 (0.30%)	-0.09
2017年1月18日	9.90	0.030 (0.30%)	0.07
2017年2月20日	9.83	0.030 (0.30%)	-0.04

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金額

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2016年3月18日の直前の分配落日(2016年2月18日)における1口当たり純資産価格は、10.22豪ドルでした。



## 《今後の運用方針》

ファンドは、2017年8月25日付で早期償還されました。

## 《お知らせ》

ファンドの運用資産残高が減少したことに伴い、ファンドが行う債券投資から得ることができるインカム収入に比べて運営維持に係る費用が相対的に高くなり、今後受益者の皆さまに適切なリターンを提供することが困難になったため、管理会社は、受託会社との協議の上、2017年8月25日をもって本ファンドを早期償還いたしました。

## 《ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託
信託期間	ファンドは、2010年8月4日より運用を開始し、管理会社が受託会社と協議の上、その裁量により存続期間の延長を決定しない限り、2020年7月31日に終了します。ただし、有価証券報告書に定めるいずれかの方法により当該日までに終了する場合を除きます。
運用方針	ファンドの投資目的は、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得をめざすことにあります。
主要投資対象	主として、豪ドル建ての投資適格の公社債(国債、政府機関債、準政府債(州政府債)、国際機関債、社債、ABS(アセット・バック証券)およびMBS(モーゲージ証券)を含みます。)に分散投資を行います。
ファンドの運用方法	管理会社と投資運用およびリスク・マネジメント委託契約を締結している副管理会社は、改訂・再録基本投資運用契約を締結し、投資運用会社にファンドの投資運用を委託しています。 債券運用の戦略策定は、ファンダメンタルズに基づく債券価格のバリュエーションとそれに影響を及ぼすマクロ経済動向の分析、また、ポートフォリオ・マネジャーおよびクレジット・アナリストによる業種別ファンダメンタルズ分析から成るトップダウン・アプローチと、クレジット・アナリストによる個別銘柄リサーチのボトムアップ・アプローチの融合です。これらの情報を基にポートフォリオ・マネジャーが定性判断を加えて、戦略を策定します。定量分析、クレジット・リサーチ、ポートフォリオ・マネジャーの定性判断を組み合わせたチーム・アプローチをとっていますが、オーストラリア債券チーム・ヘッドが債券戦略にわたる全責任を負っています。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファンドについて空売りされる有価証券の時価総額は、ファンドの純資産総額を超えないものとします。</li> <li>● 借入れは、原則として、一時的なものに限り、また借入金の残高の総額がファンドの純資産総額の10%を超えない場合に限り、行うことができます。</li> <li>● ファンドは、原則として、流動性に欠ける資産に対しその純資産総額の15%を超えて投資を行いません。</li> <li>● 同一発行体の有価証券へのファンドの投資総額が、その取得時においてファンドの純資産総額の10%を超える場合、原則として、当該発行体の発行する有価証券に投資することができません。</li> <li>● 原則として、同一発行体の発行済債務証券の10%を超えてファンドの資産を投資することができません。</li> <li>● デリバティブへの投資(買い持ちと売り持ちのネット合計)は、ファンドの純資産総額の最大50%までに制限されます。</li> </ul>
分配方針	クラスA受益証券につき、管理会社は、その裁量により、投資純益、実現および未実現純キャピタル・ゲインならびに分配可能資産から、毎月18日(または、当該日が営業日でない場合は翌営業日)に分配を宣言することができます。

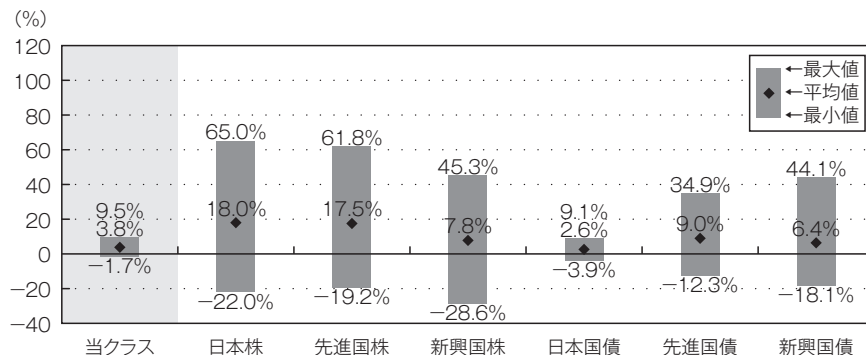
## 《参考情報》

### 【ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較】

#### ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較

このグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、2012年7月～2017年6月の5年間における年間騰落率（各月末時点）の平均と振幅を、ファンドと代表的な資産クラスとの間で比較したものです。

#### クラスA受益証券



出所：Bloomberg L.P.および指数提供会社のデータを基に森・濱田松本法律事務所が作成

※ファンドの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格を対比して、その騰落率を算出したものです。

※代表的な資産クラスの年間騰落率（各月末時点）は、各月末とその1年前における下記の指数の値を対比して、その騰落率を算出したものです。

※ファンドと代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較は、上記の5年間の各月末時点における年間騰落率を用いて、それらの平均・最大・最小をグラフにして比較したものです。

※ファンドの年間騰落率は、実際の1口当たり純資産価格およびそれに基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率は、豪ドル建てで計算されており、円貨に換算されておられません。したがって、円貨に換算した場合、上記とは異なる騰落率となります。

※ファンドは代表的な資産クラスの全てに投資するものではありません。

#### ●各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX（配当込み）

先進国株・・・ラッセル先進国（除く日本）大型株インデックス

新興国株・・・S&P新興国総合指数

日本国債・・・ブルームバーグ/EFFASボンド・インデックス・ジャパン・ガバメント・オール（1年起）

先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債・・・シティ新興国市場国債インデックス（円ベース）

（注）ラッセル先進国（除く日本）大型株インデックスおよびS&P新興国総合指数は、Bloomberg L.P.で円換算しています。

TOPIX（東証株価指数）は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、（株東京証券取引所）が有しています。なお、ファンドは、（株東京証券取引所）により提供、保証または販売されるものではなく、（株東京証券取引所）は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

ラッセル・インデックスに関連する登録商標、トレードマーク、サービスマークおよび著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利は、ラッセル・インベストメントに帰属します。インデックスは資産運用管理の対象とはなりません。またインデックス自体は直接的に投資の対象となるものではありません。

シティ世界国債インデックスおよびシティ新興国市場国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

## 《ファンドデータ》

### 【ファンドの組入資産の内容】

(第7期末現在)

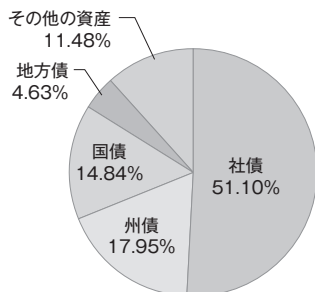
#### ● 組入上位資産

(組入銘柄数: 25銘柄)

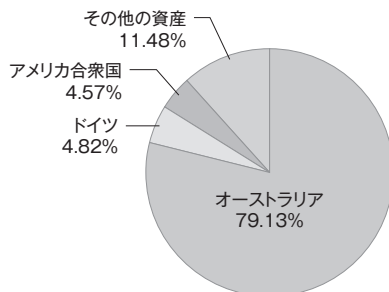
上位10銘柄	組入比率(%)
WESTPAC BANKING CORP	4.99
EXPORT FINANCE & INSURANCE CORP	4.96
LANDWIRTSCHAFTLICHE RENTENBANK	4.82
QPH FINANCE CO PTY LTD	4.77
AUSTRALIAN CAPITAL TERRITORY	4.63
METROPOLITAN LIFE GLOBAL FUNDING I	4.57
ALE DIRECT PROPERTY TRUST	4.56
NATIONAL WEALTH MANAGEMENT HOLDINGS LTD	4.52
QUEENSLAND TREASURY CORP	4.51
AUSTRALIA & NEW ZEALAND BANKING GROUP LTD	4.49

(注) 組入比率は純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合です。以下、円グラフも同じです。

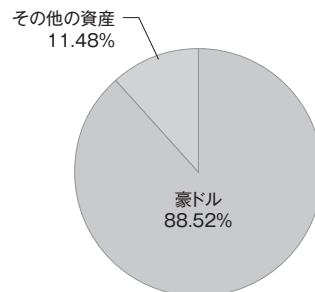
#### ● 資産別配分



#### ● 国別配分



#### ● 通貨別配分



(注1) 上記円グラフには、四捨五入した比率を記載しているため、全資産の比率の合計が100.00%にならない場合があります。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

### 【純資産等】

#### <クラスA受益証券>

項目	第7期末
純資産総額	11,282,610.44豪ドル
発行済口数	299,663口
1口当たり純資産価格	9.87豪ドル

(注) 純資産総額は、ファンドの純資産総額です。

第7期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
580 (580)	78,090 (78,090)	299,663 (299,663)

(注) ( ) の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。